

平成 26 年度市民アンケート結果（抜粋）

平成 26 年 6 月 13 日（金）に発送した市民アンケートの内容を次に示す。

1 調査目的

市民を対象に、はなバスの認知度や利用頻度、利用意向、意識の把握を行うことを目的に実施した。

2 調査概要

市内に在住の 16 歳以上の市民を対象に住民基本台帳から抽出し、郵送にてアンケート調査票を配布し、回答後、郵送にて回収した。対象者抽出の際は、地域に偏りが生じないようにした。

また、回収率向上のため、郵送回収のほかバス車内、田無・保谷両庁舎受付に回収箱を設置した。

3 アンケート配布況

2,994 票

4 回収状況

1,241 票が（回収率：41.4%）。

5 回答者属性

回答者の性別及び年代別の割合は、以下のとおりであった。

性別	割合
男性	33.2%
女性	59.3%
無回答	7.5%

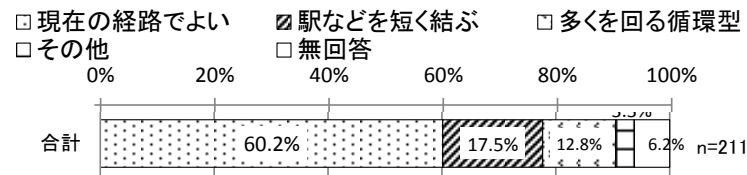
n=1241

年代	割合	年代	割合
16～19 歳	2.1%	60～64 歳	9.3%
20～29 歳	7.7%	65～74 歳	18.4%
30～39 歳	15.1%	75 歳以上	12.9%
40～49 歳	19.0%	無回答	0.7%
50～59 歳	14.9%		n=1241

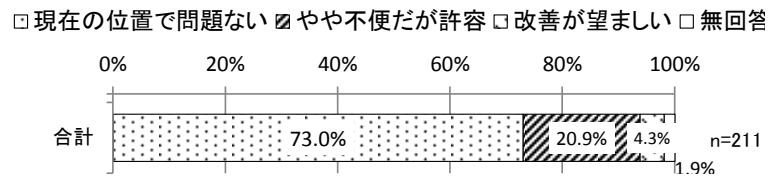
6 はなバスの満足度・要望

(1) 運行経路の基本形、バス停の位置

現在の経路で良いとする割合が 60%を超えており、また、現在のバス停位置で良いとする割合も 70%を超えている。



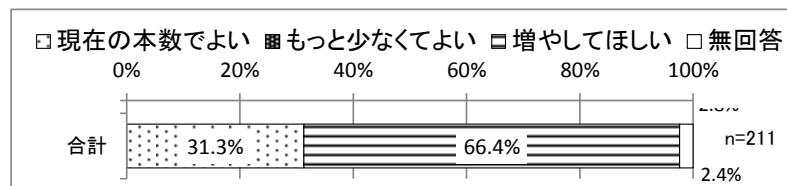
望ましい運行経路の形



バス停位置への評価

(2) 運行本数

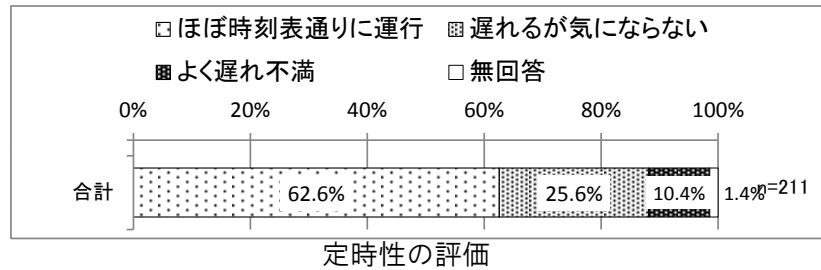
増便要望が 66.4%で、現在の本数でよいの約 2 倍となっている。また、少なくて良いとの回答は無い。



運行本数の評価

(3) 定時性への評価

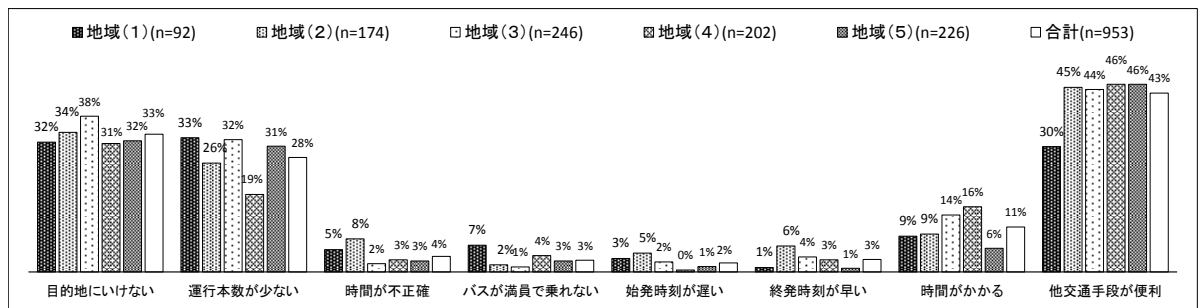
「時刻表通り」との回答が 62.6%で「気にならない」を合わせると 88.2%となる。



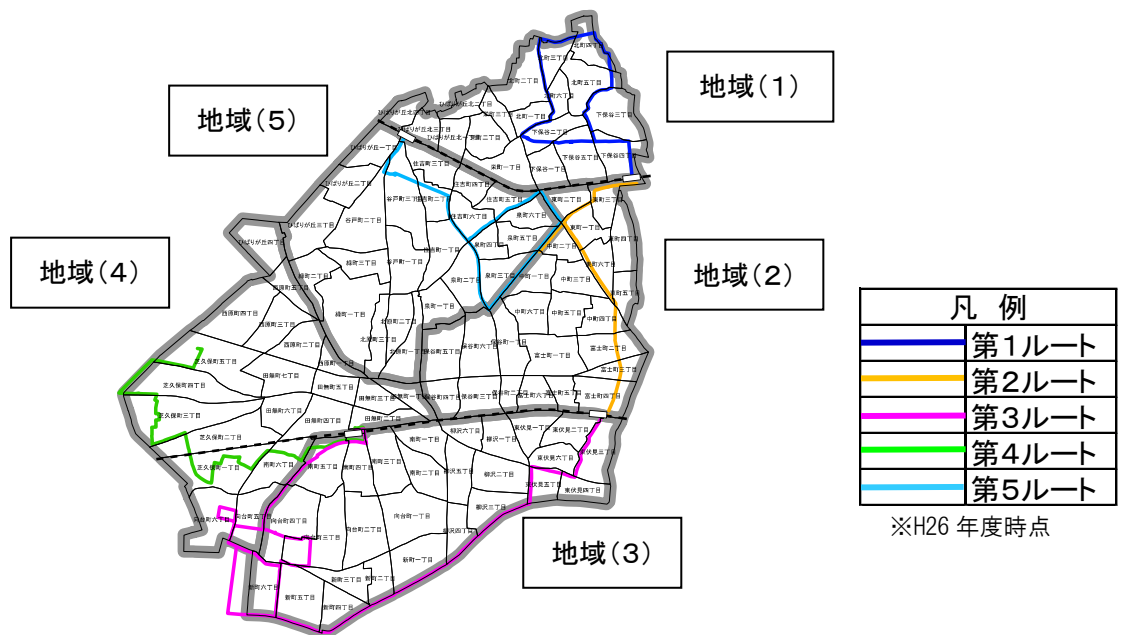
7 はなバス非利用者の考え方

(1) 利用しない理由

目的地にいけない 31%~38%、運行本数が少ない 26%~33%、他交通手段が便利 30%~46%となっている。

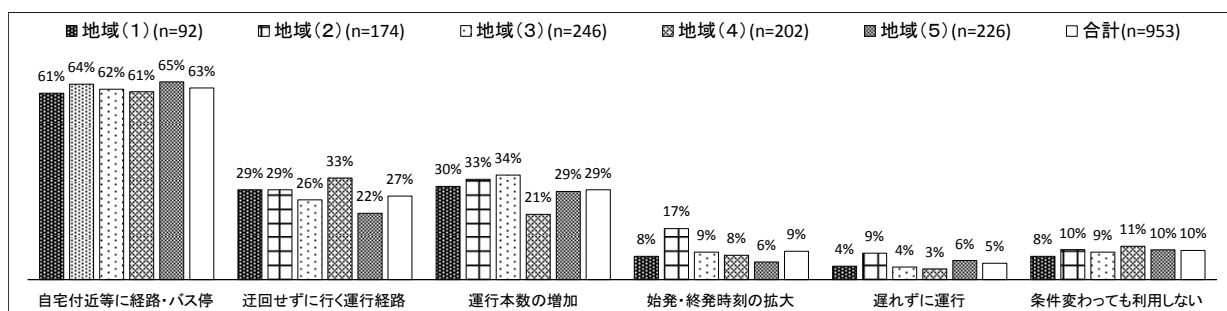


はなバスを利用しない理由



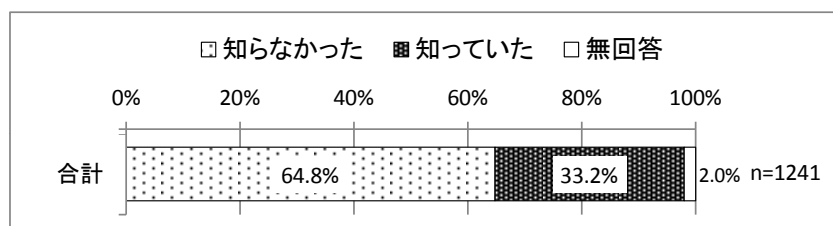
(2) はなバス利用の条件

条件が変わっても利用しないとする回答は5%～7%程度と低い。条件として、自宅付近等への経路設定が最も多い。

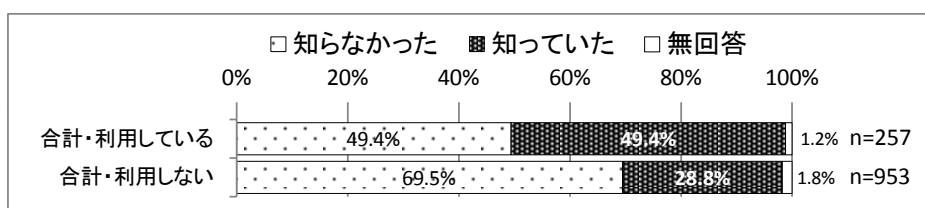


8 はなバスへの運行補助の実施認知度

運行補助の実施認知度は 64.8%であった。また、はなバス利用者の約半数が運行補助を行っていることを知っているが、非利用者の約 70%は知らないという結果である。



運行補助の実施認知度

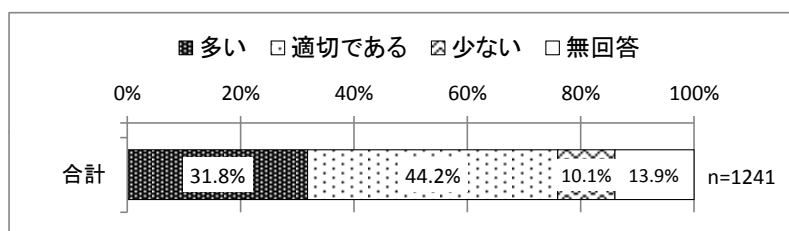


運行補助の実施認知度（はなバス利用有無別）

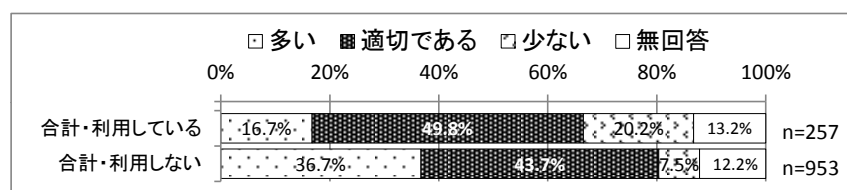
9 運行補助の妥当性

運行補助額は適切とした回答は 44.2%と最も多く、多いが 31.8%、少ないが 10.1%である。また、はなバスの利用の有無別では、利用者、非利用者とも適切であるが最も多いが、非利用者では、多いと回答する割合が 36.7%と

比較的高い結果となっている。



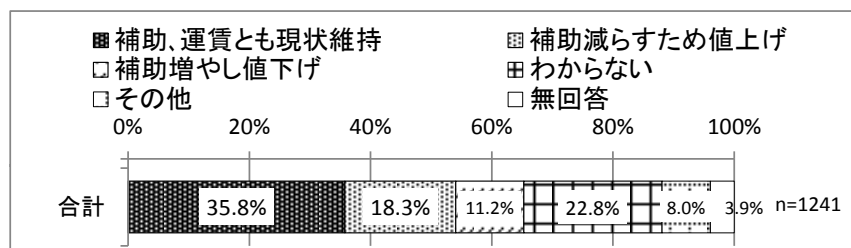
運行補助の妥当性



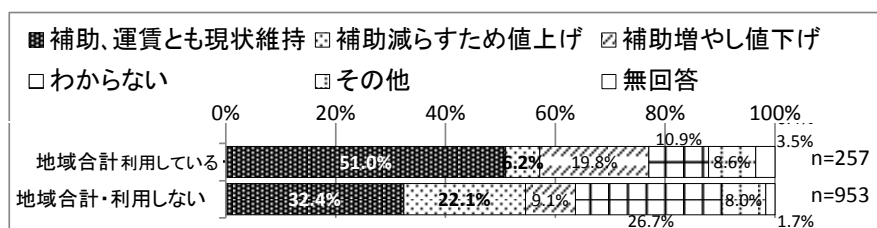
運行補助の妥当性（はなバス利用有無別）

10 今後の運行補助のあり方

35.8%が現状維持、18.3%が値上げ、11.2%が値下げとの回答である。また、はなバスの利用の有無別では、利用者、非利用者とも最も多い割合となっているが、非利用者では、値上げと回答した割合が22.1%となっている。



今後の運行補助のあり方

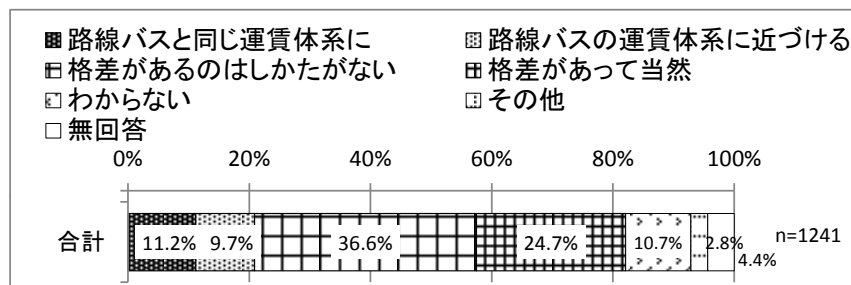


今後の運行補助（はなバス利用有無別）

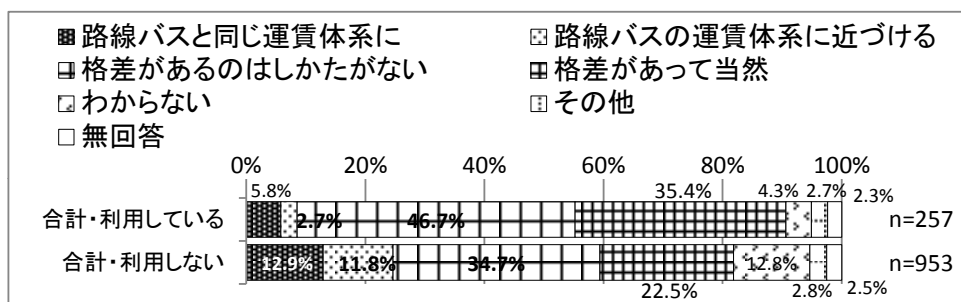
11 路線バスとの運賃格差への考え方

運賃格差を肯定する回答（しかたない、当然）が61.3%で最も多く、路線バスの運賃体系と同じ・近づけるが合わせて20.9%となっており、運賃格差に肯定的な意見が多い。はなバス利用の有無でみると、利用者、非利用者とも

運賃格差を肯定する回答が多いが、利用者と非利用者では肯定的な評価に差がある。



運賃格差への考え方



運賃格差への考え方（はなバス利用有無別）